別 紙 2

感染性胃腸炎について

新潟県福祉保健部感染症対策・薬務課

1　流行状況

○　令和３年第 52 週（12 月 27 日～１月２日）の定点当たり報告数は全県で 3.75 と、前週の 8.32 に比べ減少しました。

○　社会福祉施設における集団発生も報告されていることから、引き続き十分な注意が必要です。

○　調理や食事の前には十分に手を洗うなど、予防を心がけましょう。

2　感染性胃腸炎とは（原因となる主なウイルス等）

	ノロウイルス	ロタウイルス
主な症状	嘔吐、下痢、腹痛、軽度の発熱など	嘔吐、下痢、腹痛、発熱
潜伏期間	１～２日間（平均 36 時間）	１～３日間（平均 48 時間）
経過	通常、３日以内で回復	通常、嘔吐は１～２日、下痢は１週間程度で回復
流行する世代	全ての世代で発生	乳幼児を中心に流行 まれに成人でも集団発生が起こる
治療	特効薬はありません。乳幼児のロタウイルス感染では重症化することがあります。 嘔吐や下痢で脱水症状を起こしやすいため、水分補給をしましょう。	

3　予防方法

○　石けんを用いた流水による手洗いを徹底しましょう。特に排便後、おむつ交換後、また調理や食事の前には十分に手を洗いましょう。

○　便や吐物を処理する時は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんを用いた流水で十分に手を洗いましょう。

○　カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。
（中心温度 85～90℃で 90 秒以上の加熱が必要です）

4　学校保健安全法における扱い

○　その他の感染症（第三種感染症として扱う場合もある）と定められています。

○　症状のある間が主なウイルスの排出期間なので、下痢、嘔吐症状が軽減した後、全身状態のよい者は登校（園）可能ですが、手洗いを励行することとされています。

5　県内における胃腸炎患者等から検出された病原体（起因ウイルスの種類と型別）

		胃腸炎の集団発生事例						感染症発生動向調査 患者					
ウイルス検出事例数・患者数		7月	8月	9月	10月	11月	12月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
		0	0	0	2	1	4	1	4	5	9	7	0
ウイルス検出数	ノロウイルス				4	5	4		1	4	8	6	
	GII. 2						2						
	GII. 4				4	5			1	4	8	6	
	GII. NT						2						
	パレコウイルス								2	1			
	サポウイルス							1					
	アデノウイルス								1		1	1	

【にいがた　食の安全インフォメーション（ノロウイルスによる感染性胃腸炎・食中毒情報】
http://www.fureaikan.net/syokuinfo/01consumer/con02/con02_02/con02_02_05.html